

《薬局サーベイランスコメント》

『2019年第1週の推定患者数は約60万人と増加。今週（第2週）は更に急増してインフルエンザの流行は本格化していくと予想される』

2019年1月8日

済生会中津病院感染管理室

安井 良則

今シーズン（2018/2019年シーズン）の2019年第1週（12月31～1月6日）のインフルエンザの推定患者数は、薬局サーベイランス（<http://prescription.orca.med.or.jp/syndromic/kanjyasuikei/index.html>）によると597,330であり、前週（第52週）の値（51,5514）よりも増加しました。第42週以降12週間連続して増加が続いています（図1）。また、週明けの月曜日（2018年1月7日）の推定患者数は295,345と今シーズンの1日での推定患者数の最高値（190,320）を大幅に更新しており、今週（第2週：1月7日～15日）の患者数は更に大きく増加すると予想されます。

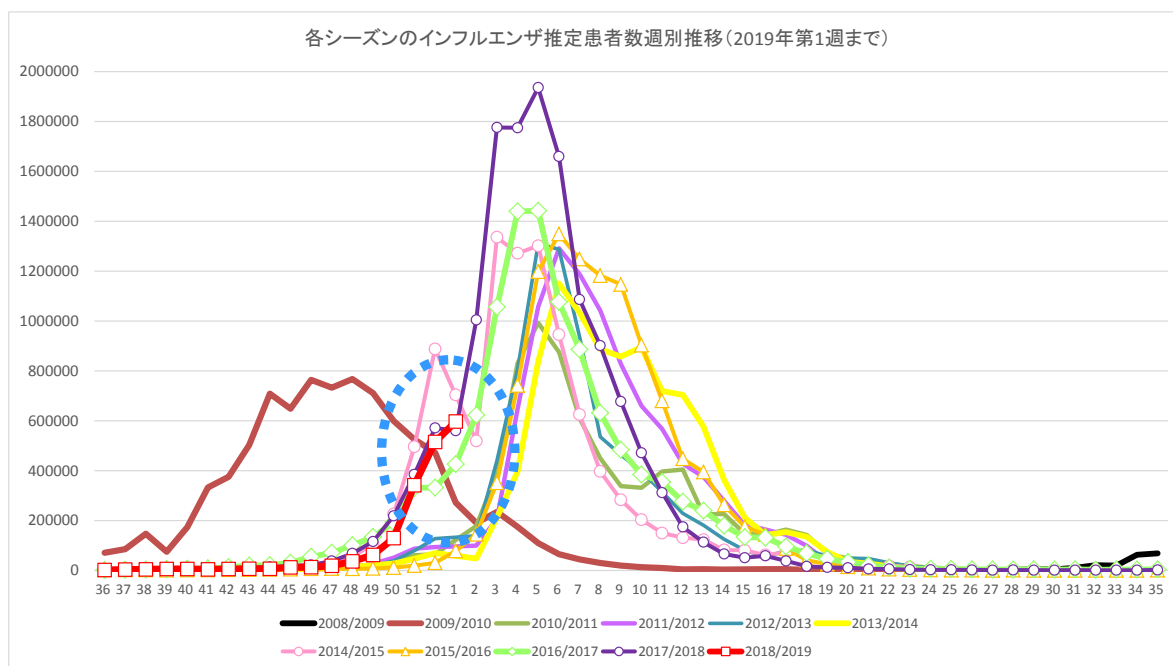


図1. 過去10シーズンと今シーズン（2018/2019年シーズン）の第36～第1週までのインフルエンザ推定患者数の週別推移（2019年第1週の推定患者数：597,330）

各都道府県別の第52週の人口1万人当たりの1週間の推定受診者数をみると北海道、熊本県、三重県、岐阜県、福井県、鹿児島県、高知県、徳島県、愛知県、佐賀県の順と

なっていて、40 都府県で前週よりも患者数の増加が見られました。

2018 年第 36 週から第 52 週までの累積の推定患者数は 1,772,107 であり、2018 年 10 月 1 日現在の人口統計を元にした累積罹患率は 1.40%でした。年齢群別での累積罹患率は 5～9 歳 (4.79%)、10～14 歳 (3.36%)、0～4 歳 (2.91%)、15～19 歳 (1.78%)、20～29 歳 (1.67%)、30～39 歳 (1.62%)、40～49 歳 (1.44%) の順となっています (図 2)。

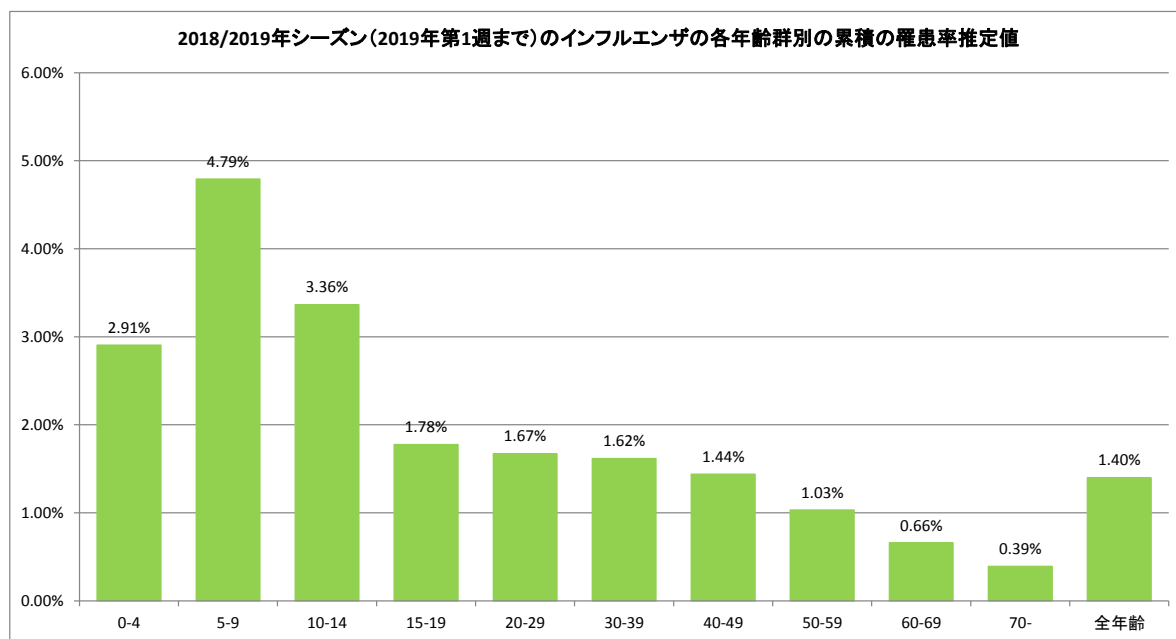


図 2. 各年齢群のインフルエンザ累積罹患率の推定値 (2018 年第 36～2019 年第 1 週、累積推定患者数=1,772,107)

国立感染症研究所感染症疫学センターの病原微生物情報 (<https://www.niid.go.jp/niid/ja/iasr.html>) によると、今シーズンこれまでのインフルエンザ患者由来検体から検出されたインフルエンザウイルス(475 検体解析)は、A/H1pdm が 70.3%と多く、次いで A/H3 (A 香港) 亜型 27.8%、B 型 1.9%の順となっています。

冬期休暇中であつたにもかかわらず、2019 年第 1 週の推定患者数は約 60 万人と前週よりも増加が見られました。今週 (第 2 週) は患者数が更に急増し、インフルエンザの流行は本格化していくと予想されます。今後ともインフルエンザの患者発生状況には注意が必要です。